

みらい通信

⑤

H16年
7月号

発行 連絡先 NPO法人紫波みらい研究所
〒028-3305
岩手県紫波郡紫波町日詰字郡山駅57-3
電話・FAX 019-676-6103
E-Mail miraiken@shiwa-mirai.com
ホームページhttp://www.shiwa-mirai.com

ようやく梅雨も明けた今日このごろ、会員のみなさまは、いかがお過ごしでしょうか。
4月に事務局員を2名向かえてから、早4ヵ月。
みらい通信第5号は、4月以降の活動報告と今後の予定をお知らせします。

新事務局員の紹介 1P

事務局からのお知らせ 2P

視察対応スタッフ募集

第15回東北の社会教育研究集会報告

平成16年度通常総会の報告 3P

2004年5月27日(木)19:00～

地元学部会主催

「デジタルカメラ環境探検隊」報告 4.5P

2004年5月29日(土)

キャノンジュニアフォトグラファーズin紫波町

「デジタルカメラ環境探検隊」写真展 6P

2004年8月7日(土)～16日(月)

第9回環境探検隊

ふれてみよう 入ってみよう 北上川! 6P

2004年8月21日(土)8:30～

森と家づくりの会主催

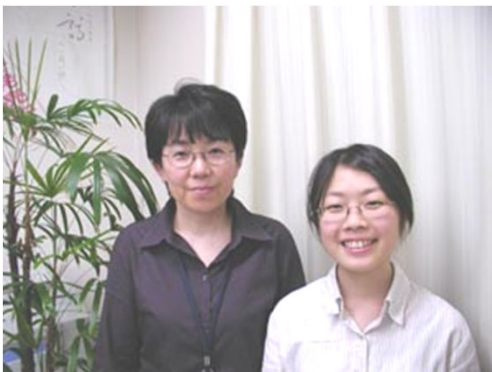
私たちの町に受け継がれる「匠の技」と「森の活用」見学ツアー

「森は身近に生きている」開催 7P

2004年7月31日(土)12:30～

國學院大学間伐体験ツアー受け入れについて 7P

2004年9月18日(土)～20日(月)



— 新事務局員の紹介 —

写真(左)佐藤由美子さん、(右)籠澤早織さん

4月1日から事務局員として採用されたお二人です。
事務局に来て以来、やることが山積みで大変ですが
紫波町の未来のため、会員の皆さんとともに取り組
んでいきますので、よろしくお願ひいたします。

◎ 事務局からのお知らせ

視察対応スタッフ募集！

紫波町の循環型まちづくりによる森林資源循環を具現化した町立上平沢小学校、町立虹の保育園には町外から多くの視察の方が訪れています。NPO法人紫波みらい研究所では、昨年からの視察対応を行っていますが、平成16年に入り件数の増加が著しく、うれしい悲鳴を上げています。

このため、紫波みらい研究所では、視察者に対するきめ細かい対応の充実を図るため、視察対応スタッフを募集しています。

ご希望の方はご応募くださるようお願いします。

内容：視察会場への案内、紫波みらい研究所の紹介

※どなたでもすぐ対応できる内容です。

※少しですが謝礼を出します。

詳細は、紫波みらい研究所までお問い合わせください。



「第15回東北の社会教育研究集会」において発表！

平成16年7月18日(日)東和町総合情報センターにおいて、第15回「東北の社会教育研究集会」が開催されました。

この集会は「市町村合併」等の「自治体再編」を見据えながら、東北各地で地域づくりや地域・生活課題の解決に向けて、種々の困難のなかで苦悩しながらも様々な取り組みを行っている東北各地からの報告を受けて、参加者が学びあい、交流しあえる場に計画されています。また、今回は地域をつくり、地域を変え、地域で学ぶ等、地域にこだわった住民の活動・学習に焦点を当てた学びと交流の場にと考えられ集会になりました。

紫波町・NPO法人紫波みらい研究所は、行政と住民の協働で、自立に向けて町・地域づくりに取り組んでいることが評価され、報告を依頼されたものです。

①NPO法人紫波みらい研究所の活動と課題

報告者-阿部礼子(NPO法人紫波みらい研究所副理事長)

②岩手県紫波町の町づくり構想と取り組み

報告者-中田久敏(紫波町環境課循環政策室長)

対象は、大学教授、大学生等で、約30名の参加でした。

報告の後、質疑応答がありました当みらい研究所に対しても次のような質問がありました。

○福島大学 志和出身 上平沢小卒

父が、近くの河川敷に桜の木を植え、20年後、30年後にみんなで花見をしたいといっていた。紫波町の中でこのように地域づくりに対して思いを持っている人がたくさんいると思うが、NPOとしてどのようにサポートしていくのか？

○東北福祉大学の星山先生

赤沢地区に生徒を連れて行ったことがある。色々な活動をしているという印象を受けた。これから先、他のNPOもそうだが、既存の組織・住民との連携をどうしていくのか？

○福島大学 先生

環境と福祉の町づくりを進める中で、行政と市民セクターとしての住民・NPOの分担は、どうなっているのか？具体的なプログラムはあるのか？例えば、社会教育は町で、環境教育はNPOに任せるといった方法か？



平成16年度通常総会が行われました!

2004年5月27日(木)19:00～
ニュー日詰飯店

2004年5月27日(木)、午後7時からニュー日詰飯店で、紫波みらい研究所の16年度通常総会が行なわれました。出席者は、会員73名のうち、49名(本人出席28名)が出席し、来賓として、藤原町長に出席していただきました。

議長には、江崎澄雄さんを指名し、

第1号議案:

平成15年度事業報告並びに収支決算報告書

第2号議案:

平成16年度事業計画(案)並びに収支予算(案)

第3号議案:

役員改選

以上3議案が審議され、いずれも承認されました。



新役員について

第3号議案で役員改選について話し合われた結果を元に、総会後に行なわれた理事会で以下のように新役員が決定しました。

理事長:高橋米勝(再任 前職・副理事長)
副理事:阿部昌利(再任 前職・理事)、阿部礼子(再任)、
理事:菅原和博(新任)、細川一三(再任)、細川栄子(再任)、
八重畑祐見子(新任)、吉田貴浩(再任)、
監事:八重畑忠(再任)、吉田百子(新任)

新理事長のあいさつ

先日5月27日の総会後に行われた理事会において、理事長に選任された高橋米勝と申します。紫波みらい研究所の会員の皆様、暑い夏、いかがおすごでしょうか。

当研究所も早や三年目の活動に入りましたが、会員の皆様の協力で、少しずつNPO法人本来の姿に近づいてきたと思っております。当研究所では、地産地消部会、森と家づくりの会、地元学部会の3つの部会によって活発な活動を展開しており、毎回楽しい思いで活動してまいりました。

今後少しでも町勢発展のために役立つよう、会員皆様の一人ひとりの力を結集して、よりよいNPO活動を行ってまいりたいと思っております。

会員皆様の全員参加による活動の一層の前進を願い、ご挨拶といたします。

暑い夏が続いておりますが、夏バテしないよう、元気でこの夏を乗りきりましょう。

これまで、役員をしていただきました理事長の高橋力さん、理事の高橋節也さん、多田祥一さん、小田島栄太郎さん大変お世話になりました。

総会に出席された高橋力前理事長からは「昨年9月から10月は病気がちで、体調がすぐれず、若い人にバトンタッチすることを考えた。新理事長のもとに結束し、紫波みらい研究所がますます発展することを願っています。これからは会員としてお役に立てれば望外の幸せです」とのご挨拶がありました。

地元学部会主催

『デジタルカメラ環境探検隊』報告

2004年5月29日(土)

朝からぼつりぼつりと雨降る5月29日(土)、キヤノン株式会社との共催による『デジタルカメラ環境探検隊』が行なわれました。

今回が8回目となる環境探検隊は、紫波町が平成15年11月に「循環・共生・参加まちづくり」環境大臣表彰を受賞したことに注目したキヤノン株式会社から、記念事業「子ども体験学習支援プロジェクト」として提案されたものです。

子どもたちにデジタルカメラを渡し、楽しみながら紫波の自然を撮影してもらうことにより、子どもたちの身近な自然への関心を深め、環境保全意識を高めることを目的として行なわれました。

この日はあいにくの空もようでしたが、雨には雨の日ならではの良さがあります。カッパや傘をさしながら、子どもたちは心の赴くまま山の中を歩きまわり、付き添いのお父さんお母さんと、みんなで楽しい時間を過ごしました。

◎ 午前の部

【撮影会場:ラ・フランス温泉館湯楽々裏山、志波三山東根山登山口周辺】

◎ 午後の部

【撮影会場:水分神社/ビューガーデン周辺】



スタッフのコメント

写真の先生をしてくれた

永武ひかるさん(写真家・ワンダーアイズプロジェクト代表)

みなさんと一緒に、紫波町の自然に触れることができ嬉しく思いました。

雨でより一層みずみずしさを増した鮮やかなグリーン、小さな虫や切り株に生えるキノコなど、参加したみなさんが、カメラを手にワクワクしながら写した、発見の喜びと驚きを分かち合うことができました。撮りかたにも一人ひとりの個性や創意工夫が表れていました。

紫波町の聖なるスポット・水分神社、地域社会で守り育てる新しい森、色とりどりの草花に心が踊るビューガーデン、写真を撮りながら、紫波町の豊かな自然が心に刻まれ、自然に対する感性が育まれたことと思います。

紫波みらい研究所の活動に乾杯します。



キヤノン株式会社

宮崎康子さん

紫波町の豊かな自然の中で、子どもたちの写真教室を開催できたことに、本当に感謝しています。

キヤノンは今後も、子どもたちが撮影したすばらしい写真を通して、環境を守るお手伝いをしていきたいと思っています。



**この企画をコーディネートしてくれた
小野紀之さん
(東京都 NPO法人 地域パートナーシップ支援センター理事長)**

朝から時折強く降る雨。多くの子どもたち、そして何よりもこの日のために準備してきた紫波町や東京の環境探検隊スタッフにとって、この一日が終わるまで、決して心から喜べる日とは言えなかったことでしょう。

しかし、そのような中で、不謹慎ながら私は別段心配することもなく、当初から楽天的なひとりでした。

多くの水田に囲まれ、水分神社というすばらしい水源を持つ紫波町にとって、まさに雨は恵み以外の何ものでもないと考えていました。私が紫波町を好きになり、このように事あるごとに紫波町と関わる口実を見つけているのも、この町に少しでも長くいたいからに他なりません。だから、晴天もよし、曇りもよし、そして雨もよし、というわけです。

この雨の風景を通して私は、多くの生命を育む水の大切さを忘れがちな現代人、そしてこれからの紫波町、さらには地球の環境について真剣にその行動を試される子どもたちに、もうひとつの自然の姿を見てほしい、好きになってほしいという気持ちでいっぱいでした。

そして、その期待は決して裏切られませんでした。水を得た魚、とはよく使われることばですが、この日、デジタルカメラを首からぶらさげた子どもたちは、まさにその魚そのものでした。葉の先についた水滴、霧(もや)に煙る杉の巨木、足元で見つけたほんの数ミリの昆虫、すべての風景、すべての生命に子どもたちは目を輝かせ、優しいまなざしを向けてくれました。子どもたちが雨も気にせず(スタッフは、誰もが正直、カメラが心配だったのですが・・・)、土のにおいすら感じられるくらいに地面に這いつくばって撮影する様子は、まさに森に生きる生きものそのものになりきっていました。

今回の環境探検隊は、子どもたちに多くの感動と発見の喜びを与えてくれました。そして、それ以上にうれしかったことは、いっしょに参加してくれた保護者のみなさんやスタッフに対しても、紫波町の自然が多くの感動と連帯の輪を与えてくれたことでした。

また近いうちに、紫波の町中でお会いできる日を楽しみにしております。

吉田修さん(会員)

当日は雨模様でしたが、たくさん子どもたちが参加し、雨をもものとせず元気に写真を撮っている姿を見て安心しました。やはり、子どもは屋外で自然と触れ合う姿が似合います。子どもたちが撮った写真は、視点が大人とは違い、大人が見落とすようなところを、しっかり捉えています。

そんな視点で自然との関わりを考え、これからの紫波町を担っていただきたいと思います。



← お気に入りの写真を
フレームに入れて
プレゼントしました



子どもたちは、カメラを持ってただ写真を撮るだけでなくその土地を愛する案内役の説明を受けながら、植物を観察したり、木登りをしたりして、五感で自然を満喫しているようでした。案内役を引き受けてくれた泉館重雄さん、瀬川勲さん、ボランティアスタッフのみなさま、本当にありがとうございました。

参加者募集!

地元学部会主催

キャノンジュニアフォトグラファーズin紫波町
「デジタルカメラ環境探検隊」写真展

キャノン(株)との共催で5月29日に実施した探検隊の写真展を以下の通り実施します。
子供たちの目から映し出された紫波町の自然を、ぜひ見に来てください!

- ・ 8/7(土)～16(月) 紫波中央駅待合室
- ・ 8/22(日)～30(月) 盛岡駅2階コンコース

8/6の午後から展示を行ないます。お手伝いしてくれる方を募集します。

参加者募集!

第9回環境探検隊

『ふれてみよう 入ってみよう 北上川!』

主催:紫波みらい研究所
協力:紫波町川を知る会

8月21日(土)

- 時 間 午前8時30分～午後1時30分
集合場所 紫波町運動公園河川グラウンド
野球場南側駐車場
(消防操方練習場)
参加費 大人1,500円、子供1,000円
(ゴムボート借用料、講師謝金、
保険代などに使われます)
内 容 ゴムボートで川を下ったり、
川辺を歩いて自然観察をしたり、
川に入って川遊びをする。

服装・持ち物

ぬれてもいい服装(びしょぬれになります)、
ゴミ袋、着替え一式、替えの靴

申し込み締め切り 8月13日(金)午後5時

※雨天決行ですが、増水の場合は晴れていても中止になります。

※昼食は用意しておりませんので、解散後、各自でお願いします。



←
去年の川下り風景

参加者募集!

森と家づくりの会主催

私たちの町に受け継がれる「匠の技」と「森の活用」見学ツアー
「森は身近に生きている!」開催

2004年7月31日(土)12:45～

みなさんは、紫波町の森が小学校や保育園になったことを知っていますか?

何十年・何百年もの長い間、この町で育った樹木たちが、
この町の匠の技で、子供たちを育む施設へと生まれ変わりました。

今回は、その代表的施設である 上平沢小学校・虹の保育園 と、

紫波町指定文化財である 武田家の曲がり屋 へと、匠たちが案内します。

見学ツアー終了後には交流会を予定しています。ぜひご参加ください。

2004年7月31日(土) * 雨天決行

集合・受付 12:30 紫波町保健センター駐車場

出発 12:45

帰着 16:30(予定)

交流会 17:00～ 紫波町保健センター駐車場

定員 40名(応募多数の場合は先着順です)

参加費 (見学会) 会員 700円、一般 1,000円
(交流会) 会員 1,500円、一般 2,000円

※説明内容から、今回は成人に限ります。

※交流会はアルコールも準備しますので、参加される方は
飲酒運転等ご配慮ください。

※交流会へのお酒やおつまみの持ち込み歓迎です。



木のぬくもりを感じる上平沢小(音楽室)

応募締め切り: 7月29日(木)17:00まで

参加者募集!

國學院大学間伐体験ツアー受け入れについて

2004年9月18日～20日

平成16年9月18日(土)から20日(月)の日程で、東京の國學院大学の楠原文学部教授と15人の学生が間伐体験のため、来町します。

この企画は、楠原教授が、上平沢小学校の見学時に高橋理事長と知り合い、高橋理事長の呼びかけに応じたものです。7月12日(月)に行なった森と家づくりの会で検討の結果、上記日程で行なうことが決定しました。

間伐体験では、森と家づくりの会のほかに山仕事らぶの協力をいただき、山屋地内の山林で間伐体験をします。19日(日)には交流会を開催いたしますので、会員の皆さんふるって参加をお願いします。交流会場は、まだ未定ですが、会費3,000円程度で行ないます。参加希望の方は、事務局まで、ご連絡願います。

事務局からお願いがあります

紫波みらい研究所は、これからも、町民同士や行政との連携を深め、紫波町の未来のために、今できることから行動していきたいと思ひます。

それはすぐに結果がでることではないかもしれませんが、たとえゆっくりでも、小さなことでも、ひとつひとつ思いを形にしていくことによって、未来は変わると思ひます。今の子どもたちのためにできることは、机の上の議論ではなく、「本物」を見せてあげる場をつくる『行動』であり、そしてそれが次の世代の子どもたちへとつながっていくのではないのでしょうか。

今年度分 会費の納入をお願いいたします

会員のみなさまに、今年度の会費の納入のご案内をいたします。

また、みらい研究所の活動を維持し、発展させていくためにも、資金面でご助力いただける賛助会員も募集しています。

※年会費 個人会員：2,000円
賛助会員：10,000円

会費の納入は、事務局に持参していただくか、振込をお願いいたします。

↓振込みは以下のどちらかに

岩手中央農業協同組合 紫波町役場出張所
普通口座 4217490 口座名義：紫波みらい研究所

郵便貯金総合通帳 記号18390 番号12505671
口座名義：NPO法人紫波みらい研究所

平成16年度の新規入会者数

4月：2名 6月：4名 7月：3名

全部で81名の方が会員としてご協力くださっています。

少々遅くなってしまいましたが、今年度初めての「みらい通信」を発行でき、ほっとしています。

現在、「みらい通信」や「ホームページ」は、事務局が不慣れのため、会員の伊藤地歩さんが仕事が終わってから、みらい研究所の事務所にきて、作成に協力してくれています。

今回は、年度始めということもあり、内容が盛りだくさんですが、事業の内容や計画のお知らせだけになってしまいました。

「みらい通信」は、会員と会員を結ぶ、みらい研究所の要(かなめ)となるものと考えています。事業の報告・計画はもちろんのこと、**会員の方の「声」**もたくさん載せたいと考えています。日頃気づいたことや地域であったこと等を会員同志共有の話題として載せてみませんか？

電話でもFAXでもかまいませんので、記事をお待ちしています。

最後に、お茶っこ飲みで事務所にお立ち寄りください。佐藤も籠澤も首を長〜くして待っています。